

小学校の事例 東区 東光小学校

地域に花を植える活動を実施。環境を大切に作る心と地域のつながりを学習。

「花いっぱい運動」をきっかけに地域に花を植える活動を開始。地域を美化することで、環境を大切に作る心が育っている。実施には近隣の企業や町内の方の協力もあり、地域のつながりを実感する活動に。



内容 「花いっぱい運動」をきっかけに公園や街路樹に花を植える活動を実施

本校では平成10年から札幌市の「花いっぱい運動」がきっかけで栽培活動を始めた。校地内の花壇はもとより、校区内で一番大きいグリーン公園にも花を植えている。

地域の環境を美化することや実際に自分たちが食べている食物の収穫を体験することで、環境を大切に作る心を育てていきたいと考えている。

6年生は「花いっぱい運動」の一環として、環状通りの街路樹の根元に苗を植えている。近隣の高齢者の方も参加し、苗を植えているようすが「さっぽろ村ラジオ」で放送されたことも。また5年生では、花を植えるだけでなく、稲作体験も行っている。この事業は「児童の成長を町内会も支援したい」という提案がもとになり、平成17年から行っている。現地までのバスの提供や十数名のお手伝いの方の派遣を毎年行っており、学校としても大変助かっている。このように本校の取組は、地域と一体となった活動となっている。



グリーン公園での花植え

効果 環境の循環を意識するとともに地域のつながりを実感

子どもが花を育て緑に親しむ機会は、子どもの心を豊かにし、子どもに環境の循環への意識をもたせることにつながっている。また活動をととして近隣企業や地域の方々に協力してもらうことで、子どもや学校も地域との関わりが増えている。このような地域コミュニケーションも花育のメリットの1つと考える。

田植えで汚れてしまった子どもの足を地域の高齢者の方が拭いてくれる光景も見られ、子どもが地域の方とふれあうよい機会になっているといえる。子供たちにも地域とつながっているという意識が根付いている。



田植えのようす

今後 教育環境の変化に合わせて活動を見直し

平成23年度より総合的な学習の時間の時数が減ってしまうが、環境教育につなげられる教科は他にもある。今後この栽培活動を教育課程にどのように位置付けていくか見直しが必要だと思う。今後も地域との連携をはかりながら、今の活動を基盤にした環境活動を進めていきたい。



街路樹花壇に花を植えているところ



街路樹花壇に花を植えているところ

広げよう
つなげよう
環境学習の輪

**実施校から
メッセージ**

このような校外活動は地域とのつながりがあってこそスムーズな活動ができると思います。そのために普段から地域とのコミュニケーションを円滑にとれるような関係を築いていくことが重要ではないかと思ひます。